

## マラッカ王国

マレー半島南西部に成立したマラッカ王国は15世紀に入ると国際交易の中心地として成長し、東南アジアにおける最大の貿易拠点となった。15世紀から16世紀初頭までのこの王国の歴史について、外部勢力との政治的・経済的關係および周辺地域のイスラーム化に与えた影響に言及しつつ、300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

## 解答例

タイのアユタヤ朝に圧迫されていたマラッカ王国は、15世紀初めに始まる鄭和の南海遠征を機に明と冊封関係を結んで朝貢貿易を行い、アユタヤ朝に対抗した。一方で王がイスラームに改宗してムスリム商人の拠点ともなり、マラッカ海峡の覇権を巡ってジャワ島のマジャパヒト王国に対抗してインド洋交易圏と南シナ海交易圏を結ぶ中継貿易やモルッカ諸島からもたらされる香辛料の貿易で繁栄したが、16世紀に、香辛料を求めて来航したポルトガルに占領された。マラッカ王国のイスラーム化以後、その交易路に乗って東南アジア諸島部にイスラームが広まり、スマトラ島にアチェ王国、ジャワ島にバンテン王国やマタラム王国などのイスラーム国家が成立した。

宣教師の中国での活動

16世紀，ヨーロッパ人宣教師による中国へのキリスト教布教が活発化した。この時期にヨーロッパ人宣教師が中国に来るに至った背景，および16世紀から18世紀における彼らの中国での活動とその影響について，300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

解答例

16世紀ヨーロッパで宗教改革が始まると，カトリック側はこれに対抗する動きを起こし，イエズス会を結成した。大航海時代が本格化する中，イエズス会はカトリックの海外布教の中心となり，中国では明清の宮廷に仕え，その保護を受け布教した。またマテオ=リッチが中国初の世界地図を作製するなど，イエズス会士は西洋の学術を中国に紹介し，実学の発達などに寄与した。一方で宣教師が伝えた儒教や科挙など中国情報は，ヨーロッパの思想・制度に影響を与えた。しかし中国の伝統儀礼を信者に認めたイエズス会と，認めない他派や教皇との間で典礼問題が起きると，清の康熙帝はイエズス会以外の不況を禁じ，雍正帝はキリスト教の布教を全面禁止した。

**問題** 古代 東アジア・中央アジア

ソグド人

6世紀から7世紀にかけて、ユーラシア大陸東部ではあいついで大帝国が生まれ、ユーラシアの東西を結ぶ交通や交易が盛んになった。この大帝国の時代のユーラシア大陸中央部から東部に及んだイラン系民族の活動と、それが同時代の中国の文化に与えた影響について、300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

**解答例**

イラン系ソグド人は、サマルカンドを中心とするソグディアナを拠点に、オアシス都市を往来する東西貿易で活躍し、中国の絹や生糸を西方にもたらした。彼らの用いたソグド語・ソグド文字は中央ユーラシアの共通語・文字となった。ソグド人はトルコ系の突厥帝国において政治や外交で活躍し、隋唐帝国では軍人や芸術家としても重用された。安史の乱を起こした安祿山もソグド系の軍人であった。ソグド人やササン朝滅亡後に亡命したイラン人が西方の文化をもたらし、唐の都長安ではゾロアスター教・マニ教・ネストリウス派キリスト教などの寺院が建立され、ポロ競技、銀器などの工芸品、胡風の音楽や舞踊が流行し、国際色豊かな文化の形成に寄与した。

**問題** 古代・中世・近世 東アジア

東北地方の諸民族・国家の興亡

マンチュリア（今日の中国東北地方およびロシア極東の一部）の諸民族は国家を樹立し、さらに周辺諸地域に進出することもあれば、逆に周辺諸地域の国家による支配を被る場合もあった。4世紀から17世紀前半におけるマンチュリアの歴史について、諸民族・諸国家の興亡を中心に300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

**解答例**

4世紀に台頭した高句麗は、楽浪郡を滅ぼして朝鮮半島北部に進出し、南部の新羅・百済と争った。高句麗は7世紀後半に唐・新羅連合軍に滅ぼされたが、同世紀末にはその遺民と靺鞨人が渤海を建国した。10世紀前半には契丹が遼を建てて渤海を滅ぼし、五代の後晋の建国を支援して燕雲十六州を獲得した。12世紀前半には女真が金を建てて、北宋と遼を滅ぼし、さらに北宋を滅ぼして華北を支配した。13世紀に金はモンゴル帝国に滅ぼされ、その後マンチュリアは元や明の支配を受けた。17世紀には、明の支配下で女真が再び勢力を拡大して後金を建て、内モンゴルのチャハルを征服して清と改称し、明滅亡後の中国に進出して全土を支配するようになった。（300字）

## オスマン帝国とトルコ共和国の国家統合

内外の圧力で崩壊の危機に瀕していた、近代のオスマン帝国や成立初期のトルコ共和国では、どのような人々を結集して統合を維持するかという問題が重要であった。歴代の指導者たちは、それぞれ異なる理念にもとづいて特定の人々を糾合することで、国家の解体を食い止めようとした。オスマン帝国の大宰相ミドハト＝パシャ、皇帝アブデュルハミト2世、統一と進歩委員会（もしくは、統一と進歩団）、そしてトルコ共和国初代大統領ムスタファ＝ケマルが、いかにして国家の統合を図ったかを、時系列に沿って300字以内で説明せよ。解答は所定の回答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

### 解答例

ミドハト＝パシャによって宗教・民族を問わず帝国内の全住民を平等なオスマン人とみなすオスマン主義に立脚したミドハト憲法が発布された。しかしアブデュルハミト2世は憲法を停止して専制を復活させ、パン＝イスラーム主義を唱えてカリフとして国内外のムスリムの結集を図った。憲法復活を目指す統一と進歩委員会が青年トルコ革命を起こすとオスマン主義が復活したが、徐々に世界各地のトルコ系民族の団結と一体化を目指すパン＝トルコ主義が台頭した。第一次世界大戦後敗北後にスルタン制を廃止してトルコ共和国を樹立したムスタファ＝ケマルは、カリフ制廃止やトルコ語教育で脱イスラーム化とナショナリズムによるトルコ国民の統合を図った。

匈奴

中央ユーラシアの草原地帯では古来多くの遊牧国家が興亡し、周辺に大きな影響を及ぼしてきた。中国の北方に出現した遊牧国家、匈奴について、中国との関係を中心にしつつ、その前3世紀から後4世紀初頭にいたるまでの歴史を300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

解答例

匈奴は前3世紀に勢力を拡大し、戦国時代の趙などの諸国はこれに対抗して長城を築いた。中国を統一した秦の始皇帝は、長城を修築する一方で匈奴に遠征軍を派遣した。匈奴は冒頓単于の時代に月氏を駆逐し、前漢の高祖を破って和親策をとらせるなど最盛期を迎えた。しかし、積極策に転じた武帝の攻撃を受けて衰退し、前1世紀に東西に分裂した。西匈奴の滅亡後、東匈奴は1世紀に南北に分裂し、北匈奴が西方に移動する一方で、南匈奴は後漢に服属して華北に移住した。3世紀に西晋で八王の乱が起こると、匈奴は諸王の軍事力として活躍し、4世紀初頭に自立して五胡十六国時代が始まった。この混乱の中で匈奴は永嘉の乱を起こして西晋を滅ぼした。

問題 中世 中央アジア

中央アジアのトルコ系の人々の影響

西暦8世紀半ば、非アラブ人ムスリムを主要な支持者としてアッバース朝が成立したことを契機に、イスラーム社会の担い手はますます多様化していった。なかでも9世紀以降、イスラーム教・イスラーム文化を受容した中央アジアのトルコ系の人々は、そののち近代に至るまでイスラーム世界において大きな役割を果たすようになる。この「トルコ系の人々のイスラーム化」の過程について、とくに9世紀から12世紀に到る時期の様相を、以下の二つのキーワードを両方とも用いて300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。  
マムルーク カラハン朝

解答例

9世紀にウイグルが滅亡すると、モンゴル高原でマニ教などを信仰していたトルコ系の人々が中央アジアに流入した。彼らの一部はイスラーム教に改宗してマムルークと呼ばれる軍人奴隷となり、アッバース朝などの軍事力の中心となった。一方、中央アジアに定着したトルコ系の人々は、イラン系サーマーン朝の影響を受けてイスラーム教を受容し、10世紀には中央アジア東部にカラハン朝を建てた。カラハン朝はサーマーン朝を滅ぼして中央アジアを統一し、この地にイスラーム文化を導入した。そしてサーマーン朝のマムルークがアフガニスタンにガズナ朝を建て、中央アジアにはセルジューク朝、ホラズム＝シャー朝などが成立し、トルコ系王朝が繁栄した。

問題 近代 東アジア

清代末の4つの対外戦争・講和条約

東アジアの「帝国」清は、アヘン戦争敗戦の結果、最初の不平等条約である南京条約を結び、以後の60年間にあっても、対外戦争を4回戦い、そのすべてに敗れた。清はこの4回の戦争の講和条約で、領土割譲や賠償金支払いのほか、諸外国への経済的権益の承認や、隣接国家との関係改変を強いられたのである。この4回の戦争の講和条約に規定された諸外国への経済的権益の承認と、清と隣接国家との関係改変、および、その結果、清がどのような状況に陥ったのかを、300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

解答例

アロー戦争後の北京条約で開港場が増加し、外国人の内地旅行の自由が認められたため、欧米諸国の経済進出が進展した。また外国公使の北京駐留を認めて、総理衙門を設置し、外国と対等外交を始めた。さらに清仏戦争後の天津条約でベトナムの、日清戦争後の下関条約で朝鮮の宗主権を放棄したことで、清を中心とする冊封体制が崩壊した。そして天津条約でフランスに清南部の通商特権を、下関条約で日本に開港場での企業設立や台湾などの割譲を認めたため、清の弱体が露呈して、中国分割が本格化した。義和団事件後の北京議定書では外国軍隊の北京駐留を認め、中国の半植民地化は決定的となった。また多額の賠償金は重税につながり、反乱が頻発した。

アテネとローマ

民主政アテネと共和政ローマでは、成人男性市民が一定の政治参加を果たしたとされるが、両者には大きな違いが存在した。両者の違いに留意しつつ、アテネについてはペルシア戦争以降、ローマについては前4世紀と前3世紀を対象に、国政の中心を担った機関とその構成員の実態を、300字以内で説明せよ。句読点も字数に含めよ。

解答例

アテネでは、ペルシア戦争で軍船の漕ぎ手として活躍した無産市民の政治的発言力が増し、ペリクレスのもとで市民の政治的平等が徹底された。国政の中心機関の民会は成年男性市民全員が参加する直接民主政で、行政の役職は抽選で選ばれた。一方ローマでは、国政の中心機関である元老院やコンスルなどの要職を貴族が独占していたが、重装歩兵として活躍する平民が不満を持ち、前4世紀のリキニウス・セクスティウス法で2名のコンスルのうち1名は平民から選出されるようになり、前3世紀のホルテンシウス法では、平民と貴族が法的に対等となった。しかし、有力な平民が貴族と融合したノビレスが形成され、元老院の構成員の実態となるようになった。

ドイツ統一の過程

1871年のドイツ統一に至る過程を、プロイセンとオーストリアに着目し、1815年を起点として300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

解答例

ウィーン議定書の結果、オーストリアを議長国とするドイツ連邦が成立した。プロイセンを中心としてドイツ関税同盟が発足すると、オーストリアを除くドイツの経済的な統一が進展した。自由主義的統一を目指したフランクフルト国民議会が失敗すると、プロイセンは「鉄血政策」を掲げる首相ビスマルクを中心に、軍事力による統一を進めた。デンマーク戦争で獲得した地域をめぐる対立が発端となってプロイセン=オーストリア戦争が勃発すると、勝利したプロイセンはドイツ連邦を解体して北ドイツ連邦を樹立し、敗れたオーストリアを統一から除外した。北ドイツ連邦は、プロイセン=フランス戦争を機に南西ドイツも統合してドイツ帝国を樹立した。

核兵器と国際関係

第二次世界大戦末期に実用化された核兵器は、戦後の国際関係に大きな影響を与えてきた。1962年から1987年までの国際関係を、核兵器の製造・保有・配備、および核兵器をめぐる国際的な合意に言及しつつ、300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

解答例

1962年に米ソはキューバにおける核兵器配備を巡り核戦争の危機となったが、回避されると平和共存が進み、翌年米・ソ・英は地下実験のみ認める部分的核実験禁止条約に調印し、その後核保有国を限定する核拡散防止条約を結んだ。しかし核保有国フランスやこの間に核保有国となった中国は反対して国際関係は多極化し、1970年代にはインドも核兵器を保有した。70年代前半の緊張緩和期に米ソの戦略兵器制限交渉が成立したが、1979年のソ連のアフガニスタン侵攻で交鋒は挫折し、新冷戦の対立が激化してアメリカはSDIを発表した。しかし1980年代後半、ソ連のゴルバチョフは協調外交に転じ、1987年米ソはINF全廃条約を結び、冷戦は終結に向かった。

ヨーロッパ諸国のインド進出

15世紀末以降，ヨーロッパの一部の諸国は，インド亜大陸に進出し，各地に拠点を築いた。16世紀から18世紀におけるヨーロッパ諸国のこの地域への進出の過程について，交易品目に言及し，また，これらのヨーロッパ諸国の勢力争いとも関連づけながら，300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

解答例

16世紀にポルトガルはゴアに拠点を置いてセイロン島にも進出し，銀を対価に胡椒などを入手した。17世紀にはオランダがポルトガルからセイロン島を奪うなど進出し，インド産綿布などを買い付けた。17世紀後半，オランダに対抗するイギリスがカルカッタなどを，フランスがシャンデルナゴルなどを拠点に進出し，藍や綿布を入手した。18世紀にはムガル帝国の解体に乗じて英仏が地方勢力を巻き込み対立を激化させ，七年戦争期に南インドでカーナティック戦争，ベンガルでプラッシーの戦いが起きた。勝利したイギリスは，ベンガルでの徴税権獲得を機に領土支配へと転換し始め，南インドのマイソール戦争などで支配地域を拡大した。

十字軍運動の影響

中世ヨーロッパの十字軍運動は200年近くにわたって続けられた。その間、その性格はどのように変化したのか、また、十字軍運動は中世ヨーロッパの政治・宗教・経済にどのような影響を及ぼしたのか、300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

解答例

十字軍は、聖地をイスラーム勢力から回復しようとする宗教的側面が強かったが、東西教会の統合を望むローマ教皇や、領地・戦利品を望む諸侯らの思惑が表面化し、第4回十字軍がヴェネツィア商人の要求で商敵コンスタンティノープルを占領するにいたって、経済的・政治的性格が強くなった。第1回十字軍の聖地回復により当初高まった教皇権は、最終的な十字軍運動の失敗によって、衰退に向かったが、この間、宗教熱が高揚してヨハネ騎士団など宗教式団が結成された。また、遠征で疲弊した諸侯の没落を促す一方で、十字軍運動を指揮した国王の権威が強化された。そして、十字軍の輸送によってイタリア諸都市が繁栄し、東方貿易が活性化した。

社会主義国の変革

社会主義世界は、1980年代に経済面および政治面で大きな変革をせまられた。ソ連、東欧諸国、中国、ベトナムにおける当時の経済体制および政治体制の動向を、それらの国・地域の類似点と相違点に着目しつつ、300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

解答例

ソ連では共産党独裁下で経済が行き詰まり、1985年に登場したゴルバチョフがペレストロイカによる市場経済の導入と政治体制の改革を始めた。東欧諸国では以前からポーランドの「連帯」による運動など、社会主義体制に対する反発が高まっており、ソ連の改革に後押しされ民主化運動が高揚した。その結果、東欧諸国では1989年に相次いで一党独裁が崩壊し、市場経済と議会制民主主義に移行した。中国では鄧小平による改革開放路線が進められ、市場経済化が推進されたが、1989年の天安門事件で民主化を求める運動を弾圧し、共産党独裁が続いた。ベトナムも、ソ連・中国の改革の影響でドイモイによる市場経済が導入されたが、一党独裁は維持された。

イギリスとプロイセンの啓蒙思想受容

18世紀のヨーロッパでは、理性を重視し、古い権威や偏見を批判する啓蒙思想が有力となった。イギリスとプロイセンの場合を比較しながら、啓蒙思想がどのような人々によって受容され、また、そのことがどのような影響を政治や社会に及ぼしたか、300字以内で説明せよ。句読点も字数に含めよ。

解答例

イギリスでは、信仰市民層に啓蒙思想が受容されたが、すでに17世紀のイギリス革命によって議会の地位が向上していたため、啓蒙思想は政治批判には向かわず、市民道徳の探求などに向けられた。アダム＝スミスが啓蒙思想に基づいて確立した古典派経済学は、産業革命期に市民階層の経済的活動を後押しする理論となった。一方、プロイセンでは市民階層の成長が十分ではなかったため、啓蒙思想は君主の専制政治を支える理論となった。フリードリヒ2世は商工業の保護育成を行うなど、啓蒙専制君主として上からの近代化を目指した。しかし、地主貴族であるユンカーを統治の基盤とせざるをえなかったため、農奴制などの社会構造の改革は進まなかった。

問題 古代 欧州

ローマ国家の軍隊と政治体制の変化

ローマは、イタリア半島の小さな都市国家からその国の歴史を始めたが、次第に領土を拡大して、前1世紀後半にはついに地中海周辺世界のほとんどを領有する大国家となった。この過程で、ローマ国家は都市国家の体制から大きく変化した。前3世紀から前1世紀にかけて生じたローマ国家の軍隊と政治体制のもっとも重要な変化を、300字以内で説明せよ。解答にあたっては、下記の2つの語句を適切な箇所で必ず用い、用いた箇所には下線を施せ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

私兵 元老院

解答例

ローマは中小農民による重装歩兵が軍隊の中心となり、元老院の指導で市民団の共和政が行われていた。しかし、ポエニ戦争を機に長期の従軍で疲弊した中小農民が没落し、貧富の差が拡大して重装歩兵軍団が弱体化すると、グラックス兄弟が中小農民層を立て直し、重装歩兵軍団の再建を図ったが、失敗した。その後、無産市民を動員する職業軍人制をマリウスが導入すると、ローマ軍団は将軍である有力者の私兵としての性格が強まり、軍団を率いる有力者が三頭政治を行うなど混乱が続いた。最終的にオクタウィアヌスが内乱を終結させると、彼は共和政の伝統と元老院を尊重しつつもローマ軍団の全指揮権を握り、事実上の帝政である元首政を開始した。